九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[100] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10166

出版情報：語文研究. 100/101, 2006-06-02. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

迫野虔徳先生は、本年三月三十一日をもって九州大学を定年退職なさいました。昭和五十五年、国語学国文学第一講座助教授として、熊本大学文学部より赴任されて以来、二十六年間の長きにわたって学部生・大学院生の指導にあたるとともに、ご自身の研究に邁進されました。その成果の一端は、平成十年に上梓された『文献方言史研究』（清文堂）にまとめられ、同書が第十七回新村出賞受賞の栄誉に輝いたことは、皆様ご承知の通りです。

本誌「語文研究」では、先生のご退任を記念して、ここに「迫野虔徳教授退任記念号」を編み、先生の御学恩に対する感謝の微意を表すことにしました。

ご退職を記念する出版物としては、すでに「筑紫国語学談話会」に所属する国語学専攻者による『筑紫語学論叢Ⅱ 日本語史と方言』（風間書房）が刊行されましたが、本記念号は、国語学専攻者に限らず広く会員諸氏のご寄稿を仰ぎ、先生に献呈するものです。

時あたかも、昭和二十六年創刊の本誌は通巻百号を迎えます。迫野先生は昭和四十一年の本誌第二十二号に、卒業論文の一部に基づく「古文書にみた中世末期越後地方の音韻」と題する最初の論文を掲載なさり、以後も折々本誌にご寄稿下さいました。記念すべき百号が迫野先生の退任記念号と重なるのも、たんなる偶然とは思えない因縁を感じます。

本号には併せて通算百号の目次総覧を付載しました。

最後に、迫野先生の末永きご活躍をお祈り申しあげるとともに、これまでに変わらず国語学国文学研究室に対する御教示、御支援を賜るようお願い申し上げます。

（今西記）

《規　定》

一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るが、それ以外の方に寄稿を依頼することもある。
二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三十枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。
三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
四、刊行は年二回を原則とする。
五、刊行会会費は現在年額 維持会員四千円（各号二部配布）、通常会員二千円（各号一部配布）とする。
六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。